

1 学校教育目標

○かんがえる子
(知)

○やさしい子
(徳)

○げんきな子
(体)

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○児童が通ってよかった、保護者が通わせてよかった、教職員が勤めてよかった、地域が誇りに思える学校 ○安全安心で、未来の人材を育てる学校	○よく学び、友達に優しく、体力や免疫力を高めることのできる児童を育てる学校
○児童・生徒像	○よく考え相手の気持ちを聞きながら学び合える児童 ○積極的に運動に取り組み、病気に負けない健康な体をつくろうとする児童	○あいさつがしっかりでき、思いやりをもって礼儀正しくできる児童
○教師像	○児童が主体的に取り組む授業を実現するために常に学び続ける教師 ○児童に深い愛情をもって笑顔で授業ができる教師	○メリハリをつけた指導で学校に来ることを楽しみにさせる教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

(1) 学校の現状

- 通常学級19学級、特別支援学級4学級、全23学級、児童数約600名。(学級増のためパソコンルームを普通教室へ改築)
- これ以上の学級増は不可能である。次年度以降も学級増の場合はプレハブ校舎等が必要となる。
- 若手教員の割合が年々増えているが、チーム西伊興として一体となって取り組んでいる。
- 児童は意欲的に学習に取り組んでいる。土曜授業も公開しているため、家庭・地域・学校が連携しながら学校教育を推進している。
- コロナ5類移行からは、感染症拡大の実態に合わせて予防策を実施。手洗い・うがいを中心に行い、状況に応じてマスク着用の推奨。

(2) 前年度の成果と課題

★前年度の成果

- 区学力調査目標値通過率 ⇒ 令和3年度88.1%、令和4年度88.0%、令和5年度90.4%。5年度の平均正答率は82.1%。
- いじめ早期解決100% ⇒ 児童本人の気持ちを最優先して継続的な取り組みを実施
- リモート学習や別室登校、時差登校、チャレンジ学級等、関係諸機関とも連携した学習活動 ⇒ 学校との関係が0にならないことを継続
- 異年齢集団活動や全校集会による学び合いの広がり ⇒ 特別支援の必要な児童を含め多様性を学び合う機会の増加
- 始まりの時刻だけチャイムの復活 ⇒ それ以外は時計を見ながら自分で考えて行動する体験を継続
- ICT機器有効活用の活性化 ⇒ 欠席の場合のリモート授業、H&Sによる家庭と学校の連携、AIドリルによる基礎・基本の定着

★前年度の課題

- 主体的で対話的な深い学び合いを継続 ⇒ 校内研究の深まりにより児童が主役になる学習時間が増えてきた。学び合う時間も増えている。今後は、より質の高い学び合いを目指す。
- いじめ対応は常に組織的に対応 ⇒ 学校組織だけでは解決できない事案もあったため、教育委員会や関係諸機関との連携を強化。
- 不登校傾向の強い児童への対応 ⇒ 各学年に1～2名の対象児童が在籍。児童一人一人の実態に応じた具体策を実施。特別支援教室・SC・SSW

・ SA・特別支援学級・学習支援員・SSS・教育相談課・教育指導課と必要に応じて連携していく。

○校内研究において体育学習の充実を図る ⇒ 休み時間も含め体力向上への取り組みを継続。土曜授業での体育科授業公開も継続。

○対面による授業参観や保護者会の実施 ⇒ ほとんどフリーな状況となったが、感染状況に応じて実施方法を工夫。

○ESD—SDGs教育の継続 ⇒ 土曜授業で地域清掃活動を実施するなど一定の成果あり。今後も各学年の実態に応じながら学習計画を立てる。できる限り児童が自ら考えたアイデアを活用していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	協働的な学び合いの推進		○	○	○	○
3	体力向上と病気の予防	○	○	○	○	○
4	働き方改革			○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
主体的・対話的で深く学び合う授業90%		目標値通過率90%	自己評価の際に記入						
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

1 継続	授業改善	全児童 体育科及び全教科	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の研究を生かした授業を毎月提案。全児童が学び合いの当事者として取り組んでいるかを評価。 ・体育科授業の実践を他教科や家庭・地域でも実践できているか、学校公開や土曜授業公開で実態を把握。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で取り組んでいる学び合いの場面を中心に評価。 ・他教科での実践は授業観察や教科指導専門員の指導・助言で確認。家庭や地域での取組はアンケート等で把握。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科学習において児童全員が学び合いに参画している100%。 ・他教科においても児童全員が話し合い活動に参画している90%以上。毎時間振り返りをしっかり行っている90%以上。 			
2 継続	小中連携における共通実践	全児童 全教科	年間 7回	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えを発表したり伝えたりすること」を今年度も継続して共通課題とする。各分科会において「発表や話し合いの場面」について研究を深める。 ・各分科会で管理職が指導助言する項目も共通させて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分科会の授業及び協議会において話し合いの場面に関する評価を必ず実施。 ・各分科会の指導助言においても話し合いに関するコメントを必須とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査の連携4校の実態調査を集計し、肯定的意見80%以上。 ・児童や生徒が全員主体的に参画できていたか客観的に批評。改善策も提示し次の授業改善につなげる。 			

3 継続	I C T 機器の効果的活用	全児童 全教科	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討場面において一人一人の意見が短時間で把握できるようにジャムボード等を活用。 ・ 問題に対する見通しや友達の意見を視覚的にとらえられるように電子黒板やタブレットを活用。 ・ 基礎基本の定着を図るためにAIドリル（特に算数）を活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業観察や教科指導専門員の指導助言で確認。 ・ 授業の中で児童が見通しをもって自分の考えをもっているかを確認。 ・ AIドリルの取り組み状況を確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アナログ的指導法を否定しない。検討場面でのICT活用50%以上。 ・ 自分なりの考えをもつ100%。自分の考えをもてない児童への支援は絶対。 ・ 区目標の達成90%以上。 			
4 継続	E S D — S D G s への取り組み	全児童 各教科及び領域	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50周年記念事業から継続している好事例は継続していく。 ・ 各学年に実態に応じて効果的な取り組みを随時取り込んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が意欲的なおかつ主体的に取り組んでいる。学び合いにつながっているかを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ作業は学び合いを実現している。個人作業は発表場面があるかを確認していく。 			
5 継続	学校図書館の活用	全児童 国語科		<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書量の増加を基盤にし、文章を読み取る力をさらに伸ばしていく。区学力調査結果の読み取る観点を分析し、成果と課題を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書の時間を国語の時間と意識し、めあてをもった図書の時間を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回は学級担任と図書支援員が打ち合わせを行い、意図的な授業を実施。 			
6 新規	協働的な学び合い	全児童 学校教育全体		<ul style="list-style-type: none"> ・ 詳細は重点的な取組事項一2に明記。協働的な学び合いの充実が「思考力・表現力・判断力」の育成に直結していることを全教職員・全児童で理解していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の考えをしっかりと聞くことからスタートし、自分の考えを伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月に一度、学級担任に学び合いの状況を確認し、必要に応じてアドバイスを行っていく。 			

重点的な取組事項－２		協働的な学び合いの推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権教育・道徳教育・特別支援教育の充実		年度末アンケート 「相手の話をきちんと聞いた」 「相手の気持ちを考えて行動できた」 90%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校教育全体において対話的で深い学び合いを目指す	<ul style="list-style-type: none"> 各授業の検討場面において「自分の意見を発表し友達の意見をよく聞いた」90%以上 異年齢集団活動や全校集会を月1回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科において、話し合ったり検討したりする場面を設定する。よりよい考えにまとめられれば最高評価。 特別活動部の年間計画で確認し、教務部と連携しながらできる限り回数を増やす。 	自己評価の際に記入		
道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の授業における振り返りで「よく考えた」90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に即した教材、教師の実体験説話等で、道徳的判断力・実践力を育てる。 道徳授業地区公開講座を通して、家庭や地域との連携を深める。出された声をまた次からの道徳授業に生かす。 			
いじめの早期発見、早期対応、早期解決	<ul style="list-style-type: none"> いじめは0になることはないことを前提にし、児童の成長のための教材にしていく 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活における児童の様子を教職員全員で共有。 いじめ調査を活用し、課題があれば即対応。 ポジティブ行動支援を意識し児童や教職員がプラス思考になれる確率を高める。 SNSに関するトラブルは家庭・地域と連携し、学校はチーム対応を基本とする。必要に応じて教育指導課・教育相談課と連携。 			

<p>・特別支援教育の理解増進</p>	<p>・年度末アンケート 「困っている人を助けることができた」 90%以上</p>	<p>・教職員及び全児童が合理的配慮を理解しながら行動。 ・特別支援学級と通常学級とのさらなる交流。 ・保護者や地域へ学びの多様化情報をさらに発信。</p>			
---------------------	---	--	--	--	--

重点的な取組事項－3	体力向上と病気の予防
-------------------	------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>体力向上の取り組みを通し、免疫力を高めながら、スポーツを楽しむための体幹を鍛える</p>	<p>・スポーツテストの結果 ⇒区平均値と±3ポイント ・「体力を高めたり病気を予防したりした」90%以上。 ・「健康であるために運動をやりたかった」90%以上。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		

B 目標実現に向けた取組み				
----------------------	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>体力調査結果を区平均にする</p>	<p>・50m走・反復横跳び・20mシャトルラン・立ち幅跳び・ソフトボール投げの結果を区平均と比べる。</p>	<p>・5月のスポーツテスト結果を7月に確認し、数値を把握。 ・数値が3ポイント以上低い項目を各学年と共通理解し、課題改善策を考え実践する。 ・可能ならば年度内に学年や項目を絞って再テスト実施。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自己評価の際に記入</div>		
<p>体育授業の充実</p>	<p>・令和5年度の研究成果を生かした体育授業(30分以上の運動量、運動の楽しさや喜び、運動の日常化)</p>	<p>・体育授業において毎時間30分以上の運動量を確保。 ・体を動かす心地よさを体感させ、運動の楽しさや喜びに触れさせる。 ・休み時間や放課後にもつながる教材の工夫。 ・土曜授業における体育科学習公開の継続。可能ならば保護者や地域の方々も参加。</p>			

縄跳びの全校実施	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄～区の目標達成 ・個人のため達成 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2月にかけて重点期間を設定する。 ・学校での取り組みを家庭や地域へ周知し、学校生活以外でも体力向上への意識を啓発。 ・次年度スポーツテストの20mシャトルラン結果で成果と課題を明確にする。 			
オリパラ教育の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ志向を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアマインドや障がい者理解も同時に深めるため、オリパラ経験者やスポーツ専門家を招聘した体育授業を実施。 ・国際理解を深めるための教育活動も継続。 			
健康教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都が募集している健康教育推進校に応募 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究で取り組んでいる体育科学習を核にして、運動機会の確保、生活習慣定着のための取り組み等、総合的に健康教育を推進する。 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）